

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣

医

の

カ

ル

テ



18



鷹島 慎太郎

しんめい動物病院長
(富山市高田)

2018年は戌年です。最近来院する犬種の顔ぶれは、一巡前の06年と比べてかなりの変化があります。その増減の原因と、犬種によって起きやすい病気などについて、自分なりに考察してみました。

ミニチュアダックスフントは、2000年以前からの人気犬種ですが、徐々に数を減らしているように感じます。椎間板ヘルニアによって歩けなくなるケースが知られるようになり、敬遠されるようになったと思われるかもしれません。消費者金融のテレビコマーションによって2000年初頭から始

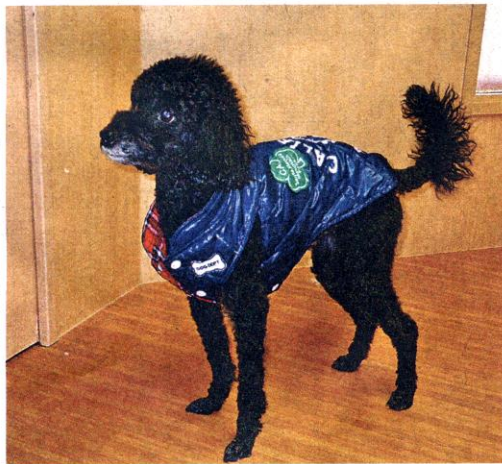
犬種と病気の今昔

まったチワワブームは、06年も続いています。首都圏で勤務医をしていた当時、コマーションと同じ色柄のチワワが、100万円程度で売られていたのを見たことがあります。当時よりチワワが減っ

ている原因は、個体によっては性格が荒く、しつけが難しいことが考えられます。とはいえ、チワワもダックスも依然人気犬種には違いありません。めっきり見なくなったのは、

ただし、抜けないということは、伸び続けるということなので、定期的なトリミング(犬の理髪)をする必要があります。他の犬種よりも手間と維持費がかかります。病気に關して犬種を問わず増え

屋内飼育で腰痛増加



プードルとコッカースパニエルのミックス犬。小型の雑種は増えている

中型犬の雑種です。柴犬などの日本犬と、その他の犬との交配によって生まれたと考えられる雑種犬は、屋外飼育の減少と、避妊去勢手術の普及により、数を減らす一方です。代わって増えてきたのが、トイプードルです。室内飼育する飼い主が増えたため、毛がほとんど抜けず、掃除の人間が少ないトイプードルの人気が高まったのでしょうか。

できていると感じるのは、犬の腰痛です。屋内飼育で階段や椅子、ソファなどの昇降が多いこと、獣医療の進歩により、長生きするようになったことなどが原因ですが、最大の悪化因子は肥満です。痛みが強い時には消炎鎮痛剤を用いますが、標準体重まで減量すると、大抵は症状が消失します。次の戌年の30年まで...とはいかないかもしれませんが、できるだけ健康で長生きしてもらうために、犬にとって適切な食事・運動管理を心掛けてください。